



◆ 顧問・関与先様各位 「ろーどニュース」9月号を配信いたします。今月もよろしくお願い申し上げます。

第12回

今月の「働くみんなのおしゃべりナイト」はBBQ！

毎月第一水曜日に「遊び、学び、つながる。」をテーマに若手ビジネスマンが集まるイベントを開催しています。今月は参加者様からの要望に応じて富士山こどもの国でのバーベキューを実施しました。子どもの頃に戻ったような気持ちで楽しく交流することができました。一見ただ楽しく遊んでいるように見えますが（まあそうなのですが。笑）、若手ビジネスマンが会社や年齢の枠を超えて、遊び、学び、繋がれる場を提供することは、【本気で地域の人づくりに貢献する】をスローガンとする当事務所に課せられたミッションであると捉えて継続しているという気持ちもあったりします。



昨年8月に“素早く小さく続けるスタイル”でスタートさせた働くみんなの静岡おしゃべりナイト。回数を重ねるごとに、私と同じくらい事業を大切にしてくれる仲間が増えてきていることを実感しています。これからも、毎月の一期一会の機会に感謝し、仲間と共に丁寧かつ楽しく継続していきます！興味がある方はお気軽にお問い合わせください。<https://office-road.jp/inquiry/>

「致知/8月号」から学ぶ人間学



人間学とは自分は何のために生きているのか。なぜ働くのか。そのような答えのない問いを繰り返し、自らの思考・感情・行動を一致させていく学問ではないかと私は考えます。

【今月の学び】 知覧からのメッセージ
生きれなかった人の分まで、今を一生懸命に生きる

(感想)
太平洋戦争中、アメリカから沖縄を何とか守るために、1945年3月26日から7月19日までの間、「特攻作戦」が行われていたそうです。

この作戦は圧倒的な物的戦闘力を持つアメリカに対して、兵隊一人の精神力を武器として対抗するというものでした。具体的には、重さ250キロの爆弾を戦闘機に装着し、敵艦目がけて体当たりして沈めるというものでした。

そのパイロットを務めていたのが、今でいうと高校2年生から3年生くらいまでの青年でした。その青年たちは自分たちが特攻で死ぬことによって、再び素晴らしい祖国が築かれるに違いないと祈り、自分を育ててくれた祖国や父母に感謝をし、短い生涯を終えたことが、知覧特攻平和会館に残る特攻隊員の手紙からは伝わってきます。

過酷な状況を真摯に受け止め、祖国のために特攻することなど私には到底できませんが、せめて、短い人生を一生懸命に生き抜いた先輩たちがいたことを忘れないこと。命には限りがあります。ただ生きるのではなく、命を燃やして行動を続けていこうと思います。

オススメの1冊



仕事 2.0 「人生100年時代の変身力」
著者/佐藤 留美 発行/幻冬舎

「仕事 1.0」
仕事の内容もどこで何時間働くかも、将来のキャリアプランも会社任せにしていた時代。

「仕事 2.0」
自分のやりたいことを、どこでどう実現するか、自分でクリエイティブする時代。



- ・普通に働いて定年まで同じ会社で働きたい。「仕事 1.0」の働き方を希望する若者は増え続けている。
- ・人生100年時代には現在と同水準の社会保障は維持できず長く働く必要がある。変化の速い市場の中では入社した会社が定年まで存続する保証はない。安定志向は否定されるものではないが、私たちの働き方は「仕事 1.0」から仕事「2.0」へと確実に見直しを迫られている。

(感想)
会社の未来は自分にはコントロールできないかもしれない。しかし、自分の未来は自分でつくることのできる。会社がどうだろうと、社会に必要な人材になっていけば仕事に困ることはない。大切なのは未来と自分。会社もそう考えられる人材と組みたい！と思う時代はすでに始まっているのです。



第1回 FUJI CIVICPRIDE3776を実施 /F-designからのお知らせ

令和元年からスタートしたFUJI CIVICPRIDE 3776。この事業は同実行委員会と私が所属する一般社団法人F-designとが主催した事業です。8/20-21までの1泊2日で第1回目の事業を終了しました。詳細はWebサイト (<https://f-design.or.jp/>) をご覧ください！



CIVICPRIDE (シビックプライド) とは、自分がこのまちの担い手であるという思いや誇りです。若い内に、毎日見上げている日本一の富士山に登ることで、若者の故郷に対するCIVICPRIDEを高めること。そしてCIVICPRIDEという思いや誇りは内面的なもので目には見えません。だからこそ、富士山に挑むというわかりやすい行動で表すこと。わかりやすい形にすれば、きっと後輩達も「俺も大きくなったら富士山に登るぞ！」と続いてくれるはず。この事業の根底にはそんな思いが込められています。「いただきへの、はじまり」となった1回目の事業が終わりました。長く継続できる事業にできるよう、真摯に検討をし、2回目に向けた準備をしまいにします。

研修・ワークショップ実施のご相談はお気軽に！

当事務所の大道が研修講師として各種研修に登壇させて頂いております。今年の登壇実績は以下の通りです。「研修で課題を解決したい！」等のニーズありましたら、お気軽にご相談ください。

- ・ 部下を自律型社員に育成する
(富士市社会福祉協議会様/管理職等職員研修)
- ・ これってパワハラ？職場づくりセミナー
(株式会社イーシーセンター様/社員研修)
- ・ 個人と組織が共に成長し合うチームづくり
(富士市子ども未来課様/放課後児童支援員等資質向上研修)
- ・ タイムマネジメント研修
(株式会社キャリアステーション・パートナー講師として登壇)
- ・ 営業コミュニケーション研修
(株式会社キャリアステーション・パートナー講師として登壇)
- ・ 労務管理研修
(株式会社キャリアステーション・パートナー講師として登壇)



従業員様を正社員にする予定はありますか？

「キャリアアップ助成金」とは、非正規雇用労働者のキャリアアップなどを応援する事業主に対して助成される制度です。その中の正社員化コースは、非正規雇用労働者を正規雇用労働者等に転換した場合に事業主に支払われる助成金です。

- 【例】1年の契約社員を正社員に転換させた場合
有期契約社員 → 正規社員 1人あたり57万円
(生産性向上の要件を満たす場合72万円)
※受給のためには諸々の条件を満たす必要があります。

ここ1、2年で入社された20代、30代の若い契約社員・パート様がいて、「〇〇さんの将来のことを考えると正社員にしてあげたい！」そんな風に考えておられる事業主様にお勧めです。お気軽にご相談ください。

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/part_haken/jigyounushi/career.html

ろーどの眩き/ナンバーワンよりオンリーワン？

「ナンバーワンとオンリーワンあなたはどちらが大切だと思いますか？」この質問は最初に入社した会社の採用面接で訊かれた質問です。約15年前の私の答えは最後に記すとして、皆さんならどんな答えをされますか？

心理学を継続的に学んでおり、その中でよく話題にできるのが自己肯定感を高めることが大事だという考え方です。自己肯定感とは、「良いところも悪いところも含めて、ありのままの自分を受け入れる気持ち」であると私は解釈しています。この自己肯定感が低い状態だと人は冷静に物事を考えられなくなってしまうと言われていています。平成26年の調査において、日本人の若者(13歳~29歳)と他国の若者とを比較し、自己肯定感がかなり低いという結果が出ました。この原因の一つを他人と競い合うことであると捉え、学校を中心に競い合うこと、評価することをなるべく避けて、一人ひとりの個性を認める取組が増えてきているように思います。「ナンバーワンよりオンリーワンが大切だよ」という流れになっています。

しかし、これだけで自己肯定感を高め、人が邁進し続けられるかというと、私は強い疑問を感じています。なぜなら、人は一人では成長できないと考えるからです。スポーツで例えるならば、一人グラウンドでサッカーボールを蹴って練習するより、仲間と練習したほうがはるかに成長します。その理由は、他者と共に練習することで自分を理解することができるからです。自分の下手さを理解し、「負けてたまるか！」という気持ちが生まれる。この「負けたまるか！」という気持ちこそが、人が成長する原動力であり、自己肯定感を支える要であると考えます。

従って、私は人間の成長には、まずは他者と競い合うことが大切だと思います。それがあからこそ、自分と他人の違いを理解し、ありのままの自分を知ることができるのだと思います。くどいようですが、自分一人では、一生かかってもありのままの自分を理解することなど絶対にできないと考えます。

冒頭の質問に対する15年前の私の答えです。「ナンバーワンを目指すことで、人はオンリーワンと成っていきます。」ナンバーワンとオンリーワンを掛け離れている対極の存在ではなく、繋がっているものとして捉えて応えたのを記憶しています。今もその考えには変わりはありません。

